

091600

(当日限り有効)

特別名勝 兼六園入園券

(小入 ¥100)
石川県



兼六園の由来

兼六園は江戸時代の代表的な林泉回遊式庭園である。金沢城に面した傾斜地に五代藩主綱紀が延宝4年（1676）、別荘「蓮池御亭」を建て、その庭を蓮池庭と呼んだ。これが本園の始まりといわれている。

その後、十一代藩主治脩が翠滝、夕顔亭を造った。文政5年（1822）十二代藩主齊廣のとき、千歳台に竹沢御殿が建てられた。曲水、七福神山などは、その頃の遺構である。

十三代藩主齊泰は、竹沢御殿を取壊し、霞ヶ池を拡張し、蝶螺山を築くなど御殿跡と蓮池庭との調和を図り、現在の大庭園を完成させた。

園名は、文政5年、「宏大・幽邃、人力・蒼古、水泉・眺望」の六勝を兼備することから、兼六園と命名された。